

# ネコの健康及び感情理解をサポートするアプリの制作

鴨下直弘

近年、日本では少子高齢化が進み、人とのつながりが希薄化している。厚生労働省(2025)によると、2025年には、75歳以上の人口が全人口の約18%となり、2040年には65歳以上の人口が全人口の約35%となると推計されている。また、合計特殊出生率も1.15と低い水準であり、少子高齢化が進行していることが分かる。このことから、核家族化や地域とのつながりの希薄化に繋がっている。このような状況のもと、心のよりどころとして、ペットの「家族化」が注目されている。その中でも猫は、性格が自由で独立的であることから、人が猫の健康管理を行うことが必要であると考え、本研究ではよりペット(猫)と親密、健康になれるように、健康管理や言語理解サポートなどの機能を組み込んだWEBアプリケーションを制作した。

また、近年はノーコード・ローコードや生成AIの活用により、高度なSEに頼らずとも業務DXや開発支援が可能になりつつある。上地ゼミでは従来、限られた授業時間の中でアプリ制作スキルを習得してきたが、その制約を補うため、今年度は生成AIを導入し、学生が思い描くアプリの完成イメージにより近づくことを目指した。

結果として、ペットとの親密度の向上や健康管理といった当初の目的に応じたアプリケーションを作成することができたが、猫の言語理解などの多くのデータが必要になる為断念した機能や、アンケートで複数回答を得た、「食べさせてはいけない物リストが欲しい」といったいくつかの改善点が見つかったことは今後の課題である。また、本研究のサブテーマであった「生成AIによるアプリ制作補助の可能性を知る」については、生成AIを用いることで、自分が思いついた考えをより膨らませ、よりニーズに合った作品が完成できた。しかしながら、AIへの指示が適当であることや全て考えてもらうといったことがあると、機能を盛り込みすぎてうまく作動しないという事があったため、生成AIがすべてを行うのではなく、補助的に人間が活用することが最も望ましいと考え結論付けた。